

国立国会図書館 電子図書館

http://www.ndl.go.jp/ndl_frm_1.html

今回は、国立国会図書館のホームページ上で提供されている、「電子図書館」です。

「電子図書館」では、6種類のデータベースが提供されています(表1)。ここでは1.の“Web-OPAC”(国立国会図書館所蔵資料データベース)を中心に、ご紹介したいと思います。

表1. 「電子図書館」で提供されているデータベース

- | |
|-------------------------------|
| 1. 国会図書館所蔵資料データベース (Web-OPAC) |
| 2. 国会会議録 |
| 3. 貴重書画像データベース |
| 4. 図書館情報学関係雑誌記事情報 |
| 5. 雑誌記事索引採録誌一覧 |
| 6. 全国の点字図書・録音図書制作速報 |

1. 国立国会図書館所蔵資料データベース (Web-OPAC)

Web-OPACは、既に日常的に利用している方も多いかと思いますが、「電子図書館」の代表的存在、ということで概要をご紹介します。

このデータベースでは、国立国会図書館所蔵資料のうち、1948年以降に受入れた国内刊行図書(約200万件)及び1986年以降に受入れた洋図書(約20万件)の書誌情報が検索できます。

検索メニューは4種類(図1)で、“図書の検索”と、“簡易検索窓”は、具体的な本のタイトルや著者名など、書誌事項からの検索ができるメニューです。“簡易検索窓”は、“図書の検索”を簡素化したものです。

“図書の検索”の入力画面では、各入力フィールド横の“説明”という文字をクリックすれば

検索方法の要領が詳しく解説されているので、一度目を通しておけば“簡易検索窓”よりこちらの方が確実な検索ができ、使い勝手が良さそうです。

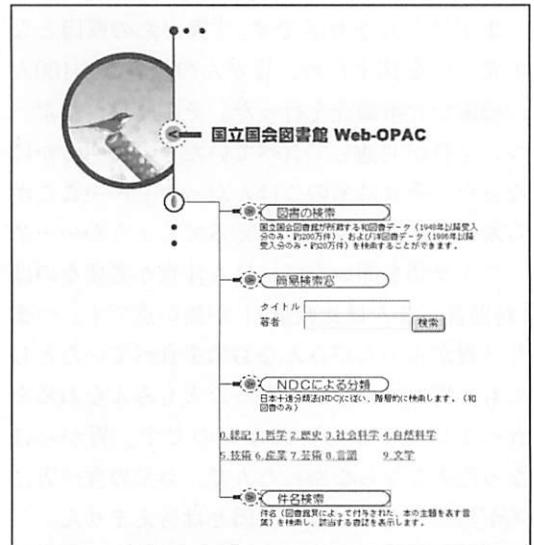


図1. Web-OPACトップページ

一方、件名や分類番号から絞り込んでいく方法で検索できるのが、“NDCによる分類”と、“件名検索”です。医学書をNDC(=日本十進分類法)で分類している医学図書館はほとんど無いかもしれませんが、NDCに普段馴染みの薄い医学図書館員にとっては一般書を扱う際の参考になり、ちょっとした時に非常に助かります。

実際に検索した結果の詳細表示は図2のようなイメージで表示されます。アンダーラインの引かれている青文字のフィールド内容(“件名”“NDLC”“NDC”)をクリックすると、その分



図 2. 検索結果の詳細表示例



図 3. 図 2 の“NDC: 494.65” をクリックして表示された結果

類 (件名) と同分類 (同件名) の資料がリストアップされる (図 3) 機能が特徴的です。

さて、このデータベースを書誌事項調査に利用する場合、類似のデータベース、NACSIS Webcat [http://webcat.nii.ac.jp/] (提供: NII 国立情報学研究所) と併用することをお薦めします。これら二つのデータベースは、それぞれの目的に沿って作られたものなので各々の特徴があり、その特徴を把握しておけば用途に応じてうまく使い分けることができます。

NACSIS Webcatは、全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌のWeb上での検索、所蔵館

調査を目的に作られた総合目録データベースです。つまり蔵書構成の面から見れば、学術的な内容の出版物の収集能力が大きいという点で頼りになります。詳細については、本シリーズ第 1 回目、「いますぐ役立つホームページ①」(病院図書館. 18 (1): 26-27, 1998) を参照して下さい。

一方Web-OPACは、国内で刊行された出版物を、公用・国際交換・文化財の蓄積 etc.を目的に国立国会図書館に納入させる制度 (*納本制度=国立国会図書館法 昭和23年法律第 5 号) に基づいて収集された国立国会図書館の蔵書目

録データベースです。つまり、基本的には国内の出版物が網羅されているので、国内最強のデータベースということになります。けれども、Web-OPACは、データ更新までのタイムラグが1～2年と大きく、頻繁（数日毎）に更新されるNACSIS Webcatと比較するとかなりの差が見られ、最新の（1～2年以内の）出版物に関しては、NACSIS Webcatの方が収録件数が圧倒的に多く、実用的と言えます。

Web-OPACの強みは、過去の出版物に関する網羅性と、内容に関する信頼性、検索速度の速さです。また価格表示がある点でも、NACSIS Webcatには無い情報が得られます。

2. 国会会議録

第121回国会（1991年8月）以降の会議録情報を検索することができます。

3. 貴重書画像データベース

国立国会図書館が所蔵する主として江戸期に発行された彩色資料（約23,000枚）の画像データを検索、閲覧することができます。

4. 図書館情報学関係雑誌記事情報

図書館情報学に関する雑誌（約128誌）の記事情報の一覧で、2000年1月分からあり、1ヶ月毎に更新します。「医学図書館」「専門図書館」「ほすびたるらいぶらりあん」、「情報の科学と技術」etc.、直接病院図書館員に役立ちそうな雑誌から、各図書館による出版物、出版業界誌まで、図書館情報学に関連したありとあらゆる雑誌の目次情報が閲覧できます。

5. 雑誌記事索引採録誌一覧

1984年1月受け入れ分以降「雑誌記事索引」に採録されている雑誌の一覧です（現在約9,000誌）。1ヶ月毎に更新します。

6. 全国の点字図書・録音図書制作速報

全国の点字図書、録音図書の速報を掲載しています。1ヶ月毎に更新します。

以上が「電子図書館」の概要です。今更という感じではありますが、今回はあえて図書館の大御所、国立国会図書館をとりあげてみました。国立国会図書館と、名称だけ聞くと、何か近寄りたいたいスゴい図書館、というイメージがあり身近に感じられないものでした。けれども、インターネット上にホームページが公開され、さらに立ち上げ当初のものからリニューアルされ、すっきりとしてより使いやすく馴染みやすくなりました。

今回ご紹介した「電子図書館」は、国立国会図書館ホームページのごく一部でしかありません。まだまだたくさんの情報が満載されているので、興味のある方は、その他の情報にもアクセスしてみてください。

このページに限らず情報量が多いホームページではたいい“サイトマップ”が用意されています。“サイトマップ”とはホームページ全体の構成を示す案内図のようなもので、各ページの階層構造が一目瞭然です。国立国会図書館の場合も“サイトマップ” (http://www.ndl.go.jp/site_map.html) が用意されているので、こちらで全体像を把握してから各ページにアクセスすることをおすすめします。

*納本制度＝国内で国の諸機関・民間 etc.により発行された出版物は、定められた期間内に定められた部数を国立国会図書館に納入しなければならない、という制度。

（文責：須井麻由美）